

非外傷性腎被膜下血腫の1例

郡立高島病院泌尿器科

渡 辺 仁

滋賀医科大学泌尿器科 (主任: 友吉唯夫教授)

小 西 平, 友 吉 唯 夫

NONTRAUMATIC SUBCAPSULAR RENAL HEMATOMA:
REPORT OF A CASE

Jin WATANABE

From the Department of Urology, Takashima Hospital,

Taira KONISHI and Tadao TOMOYOSHI

From the Department of Urology, Shiga University of Medical Science

A case of nontraumatic subcapsular renal hematoma was reported. The patient was a 41-year-old woman. She complained of right flank colic pain. Her excretory pyelography showed right hydronephrosis and ureteral stone, and demonstrated a large mass involving the right kidney and medial displacement of its collecting system. Ultrasonic examination and computed tomography revealed right subcapsular renal hematoma. Since we found no malignancy, we made a puncture and drained the lesion. A bloody aliquot was gained and its cytological examination was negative. Her clinical course was uneventful. After 6 months the hematoma was absorbed clearly.

A review was made of 38 cases of nontraumatic subcapsular renal hematoma, including our own case. Of these, the cause was unidentified in 17 cases. Hydronephrosis, mostly associated with calculi, renal infarcts, nephritis and renal cell carcinoma followed. Of 38 cases, 2 (5.3%) were of malignant tumor.

(Acta Urol. Jpn. 35: 661-664, 1989)

Key words: Nontraumatic subcapsular renal hematoma, percutaneous drainage

緒 言

とくに誘因がないにもかかわらず、腎被膜下に血腫を形成する、非外傷性腎被膜下血腫は比較的稀な疾患である。最近われわれは腹部エコー、CTにて本症を診断し、保存的療法にて経過観察中に血腫が完全に吸収された1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 41歳 女性 事務員

主訴: 右側腹部痛

既往歴・家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1986年8月10日に、突然右側腹部痛が生じ近医にて尿路結石を指摘された。その後も痛みが続くために8月18日当科を受診した。肉眼的尿尿は認めなかったが、KUB, DIPにて右腎下極の腫瘤様陰影と

それによる腎杯腎盂の孤状の圧排所見および尿管結石による尿流の停滞が認められ、精査目的にて入院した。

現症: 体格は中等度で、血圧120/78, 脈拍 72/minであった。眼瞼結膜に貧血を認めず、また胸部理学的所見にも異常なかったが、右季肋部に手拳大の圧痛をともなった腫瘤を触れた。

入院時検査: 血液一般; WBC 11,300/mm³, RBC 421×10⁴/mm³, Hb 12.5 g/dl, Ht 37.1%, Plt 42.7×10⁴/mm³. 出血凝固系検査; 出血時間 2分30秒, 凝固時間11分30秒, P.T 10.5秒, P.T.T 26秒. 血液生化学検査; T-bil 0.8, GOT 25, GPT 15, AIP 5.2, LDH 267, γ -GTP 29, BUN 12, Cr 0.82, Na 138, K 4.5, Cl 103. 検尿; pH5, 潜血(+), 蛋白(-), 糖(-), 沈渣 RBC 10-15/hpf, WBC(-), 細菌(-). CRP 3+, AFP 2.5 ng/ml, CEA 0.5 ng/dl.

X線検査所見 DIP で、右腎杯腎盂の内側へ孤状

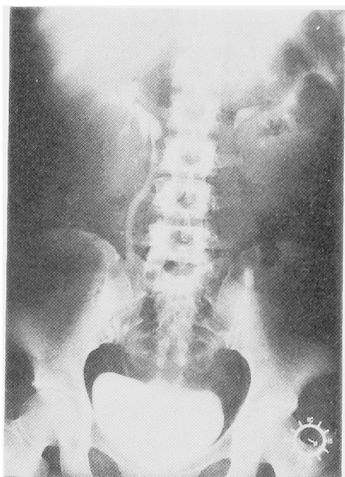


Fig. 1. DIP demonstrates right hydronephrosis and large mass.

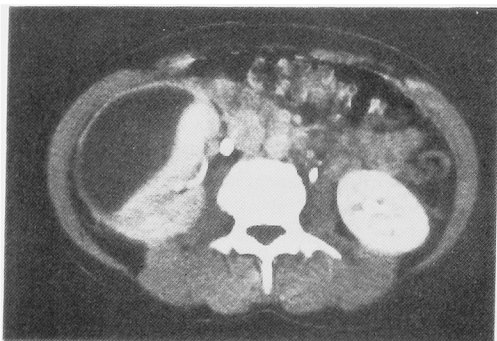


Fig. 2. CT shows a subcapsular hematoma of right kidney.

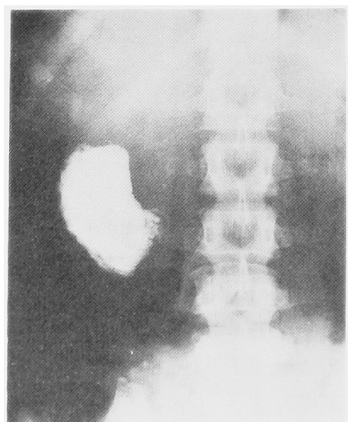


Fig. 3. After punctured and drained, fistelography demonstrates subcapsular space.

の圧排と小豆大結石を交叉部付近に認め、それによる尿流停滞があった (Fig. 1)。超音波検査では、右腎外

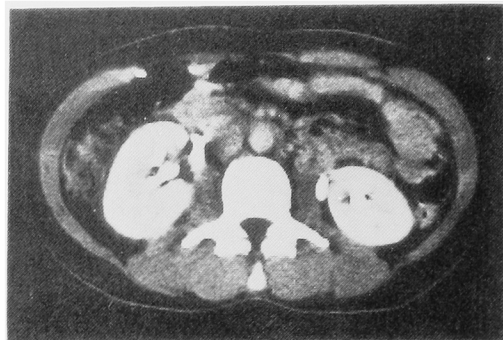


Fig. 4. CT shows that hematoma was absorbed clearly after 6 months.

側に内容均一なやや輝度の高い嚢胞状腫瘍を認めた。CT では、右腎被膜下に血腫が認められ、その CT 値より陳旧性と考えられた (Fig. 2)。またほかに腫瘍像は見られなかった。

以上の所見より、尿管結石による急激な水腎症に伴う腎被膜の伸展が関連して腎被膜下血腫が発症したと判断した。

入院以来疼痛が続くことと再出血の兆候もないことより、8月25日にエコー下に経皮的にカテーテルを留置し、約 40 cc の血液を除去した。

血腫除去後の瘻孔造影 (Fig. 3) では、内容には腫瘍を思わす陰影はなく、血腫除去後の CT では血腫はほぼ 1/3 に縮小した。術後、疼痛は軽減し再出血の徴候もなく経過は順調であった。血腫内容の細胞診は class 1 であったが腫瘍は完全に否定出来ないことより外来にて厳重 follow とした。外来での尿細胞診はすべて class 1 であり、経過中に尿管結石の排石もみた。本年1月の CT (Fig. 4) では、血腫は完全に吸収されておりまた腫瘍も描出されていない。

考 察

非外傷性腎被膜下血腫は比較的まれな疾患である。本邦では、向山¹⁾の報告以来山下²⁾の集計した32例にその後報告のあった5例³⁻⁶⁾と自験例を含めた38例の報告があるにすぎない。

非外傷性腎被膜下血腫の発症機構に関して Polkey and Vynalek⁷⁾は、一側の腎静脈を結紮するという動物実験で、33.3%に腎被膜下血腫、42.8%腎被膜外血腫そして全例に腎実質内血腫を認めたことにより、腎血流の急激なうづ滞を血腫の原因と推察した。またこの実験に関連させて山下²⁾は、水腎症による腎内圧の上昇が結果として腎静脈内圧も上昇させ

Table 1. 非外傷性腎被膜下血腫38例の主な合併症

尿路通過障害	9例
腎梗塞	4例
腎炎	3例
腎細胞癌	2例
高血圧	1例
薬剤性	1例
自己免疫疾患	1例
慢性腎不全 (血液透析中)	1例
不明	16例

Table 2. 非外傷性腎被膜下血腫38例の治療法

腎摘	20例
血腫除去	7例
経過観察	11例

ば、水腎症もまた一つの原因になりえると推察している。水腎症と腎内圧に関連して、Aliabadi ら⁸⁾は水腎症に感染が起こると腎内圧が上がるとしている。

本邦での38症例では、非外傷性腎被膜下血腫の原因となるような主な合併症 (Table 1) は、不明例が17例 (44.7%) と最も多く、水腎症を招くような尿管結石、VUR、前立腺肥大症、尿道狭窄等の尿路通過障害が9例 (23.7%)、腎梗塞4例 (10.5%)、腎炎3例 (7.9%)、腎細胞癌2例 (5.3%)、高血圧1例 (2.6%)、セデスGを長期服用していた1例 (2.6%)、結節性多発動脈炎を合併した1例 (2.6%)、および慢性腎不全で血液透析中1例 (2.6%) であった。

診断時において非外傷性腎被膜下血腫の合併症として、腎腫瘍が従来より問題となっている。これは、以前には腎血管造影を行なっても悪性腫瘍が否定できず、腎摘出術を行なった症例がほとんどであったことより推察できる。Polkey and Vynalak の集計⁷⁾では、非外傷性腎被膜下血腫と腎周囲血腫の178例のうち22例 (12.4%) に腎腫瘍が見られており Pollack and Popky⁹⁾ の報告では22例中10例に腎腫瘍が見られたと報告している。また Funston ら¹⁰⁾は、9例の腎被膜下血腫のうち1例 (11.1%) に腎細胞癌があったと報告している。本邦の腎被膜下血腫38例のうち2例 (5.3%) に腎細胞癌がみられた。この数より腎被膜下血腫と悪性腫瘍の合併は、従来考えられていたよりも多くないと思えた。しかし腎周囲血腫では悪性

腫瘍との合併率が高く、McDougal ら¹¹⁾の集計では78例のうち45例 (57.7%) に腎腫瘍が認められ、うち26例 (33.3%) が悪性腫瘍であったと報告しているし、中川ら¹²⁾の集計では、本邦29例のうち19例 (65.5%) に腎腫瘍が認められ、うち6例 (20.7%) が腎細胞癌であったとしている。

治療は Table 2 のごとく腎摘出術が最も多くなっている。これは CT、血管造影などにて悪性腫瘍との合併が否定できないことより腎摘出術が行われていたことによるもので、最近では保存的療法とするか、血腫除去後厳重 follow とする症例が多くなっている。事実1982年以前の20例では、腎摘出術17例 (85%)、血腫除去術2例 (10%)、保存的療法1例 (5%) なのに対して、1983年以降の18例では、腎摘出術3例 (16.7%)、血腫除去術6例 (33.3%)、保存的療法9例 (50%) と治療方法は大きく変化している。非外傷性腎被膜下血腫と悪性腫瘍との合併が血腫によって覆い隠される可能性はあるが、先に述べたように合併率は比較的 low であり、CT、腹部エコーの発達により術前診断が正確になされるようになり、また follow も比較的簡単となったことより、レントゲン検査、腹部エコー 尿細胞診などで悪性腫瘍を疑わせる所見がない場合は、厳重 follow のうえで保存的に治療してもよいのではないかと思われた。本症例では、血腫の原因がほぼはっきりしていることから、血腫を経皮的にドレナージし腎を温存することにより良い結果をえた。

結 語

41歳女性の非外傷性腎被膜下血腫の1例を報告するとともに、若干の文献的考察を加えた。

稿を終るにあたり御校閲いただいた滋賀医科大学泌尿器科学講座友吉唯夫教授に深謝いたします。

本論文の要旨は、第120回日本泌尿器科学会関西地方会において発表した。

文 献

- 1) 向山敏行: 自発性腎被膜下血腫の1例. 泌尿紀要 1: 204-206, 1955
- 2) 山下博志, 木下徳雄, 小嶺信一郎, 井口厚司, 中牟田誠一, 真崎善二郎: 非外傷性腎被膜下血腫の3例. 西日泌尿 48: 1903-1909, 1986
- 3) 柳沢 温, 中本富夫: 非外傷性腎被膜下血腫の1例. 日泌尿会誌 77: 687, 1986
- 4) 増田 毅, 馬場志郎, 中村 聡, 柴山太郎, 朝倉博孝, 田崎 寛: 両側腎被膜下血腫を呈した結節性多発動脈炎の1例. 日泌尿会誌 77: 1013, 1986
- 5) 寺崎 博, 崎山 仁, 鍋倉康文, 上野文彦: 非外

- 傷性腎被膜下血腫の2例. 日泌尿会誌 **77**: 1228, 1986
- 6) Kun Pak, Tadao Tomoyoshi and Naotaka Nishimura . Spontaneous renal subcapsular hematoma in a patient undergoing hemodialysis. *J Urol* **135**: 117-119, 1986
 - 7) Polkey HJ and Vynalek WJ: Spontaneous non-traumatic perirenal and renal hematomas : an experimental and clinical study. *Arch Surg* **26**: 196, 1933
 - 8) Aliabadi HA, Cass AS, Ireland GW and Ka-tsuura JK . Spontaneous rupture of hydronephrotic renal pelvis with massive hemorrhage. *Urology* **25**: 17-21, 1985
 - 9) Pollack HM and Popky G : Spontaneous subcapsular renal hemorrhage : its significance and roentgenographic diagnosis. *J Urol* **108**: 530-533, 1972
 - 10) Funston MR, Levine E and Stables DP : Spontaneous renal hemorrhage. *Urology* **8**: 610-617, 1976
 - 11) McDougal WC, Kursh ED and Persky L : Spontaneous rupture of the kidney with perirenal hematoma. **114**: 181-184, 1975
 - 12) 中川昌之, 松下和孝, 鶴田一真, 平山英雄, 山崎浩藏 : 非外傷性腎周囲血腫の1例. 西日泌尿 **46**: 415-419, 1984

(1988年4月20日受付)